「おせんしょの会」分科会

竹内公子　河野悠子記　　平成 21 年 7 月 28 日　福祉センター

Q：口込みということですが、作業内容はどこまでやりますか？
気軽に自分でできることまで便利に使われているということはないですか？
自分の経験から思うのですが、障がい児などは最初だけ手を差し伸べると子供の方からどんどんやりだすが、高齢者の場合、「楽でいいわ」と自分で出来ることまでやってもらうようになる。自立自助との兼ね合いは如何でしょうか？

A：今は始めたばかりだから、まずは何でも受けるという姿勢をとっている。確かに家族（息子）が近くに住んでいるのに、みんなやってあげていいのかな？と疑問に思うこともある。生協メンテやシルバーとは作業が競合しないように心しているが、基本的には会の活動が存続することが大事なので仕事量がほしいから何でもする。（今井）

Q：介護保険制度が始まって以来、ヘルパーさんにあれもこれもやってもらって、自分で這ってでもという自助精神が弱まって、身体まで弱くなっていく例もあるが・・・

A：確かに今後の課題であると認識している。問題解決をいっしょになって考えて、いっしょに作業する方向も大事かなと思っている。目下マニュアルをつくって検討中。（杉山）

Q：ヘルパーの経験があるのですが、「介護サービスでやれる範囲は決まっていて、枠が決まっているからそれ以外はヘルパーの仕事じゃない」ということになる。

A：息子も月に1回くらい顔を出しても、「いちいちそんなことを頼むなよ！」とやっぱりやってくれない。「頼んでもやってくれないので困っている」この現実は無視できないので「やってあげてもいいのかな。」と思っている。（今井）

Q：若い人たちは忙しくて農業をやらない。老人の手に余るようになって畑は草ぼうぼう。こんな場合も要請があれば手伝いますか？

A：とりあえず受けるが、どうしたらいいかを一緒に考えて、困りごと解決の方法を探っていくことだと思う。ボランティア、介護プロ、家族、それぞれの守備範囲がわかれている。やれることはやるが、やれないことはやらない。（今井）

Q：「あの人にはやってあげて、私にはやってくれない」などの不平不満がでませんか？

A：必要性の判断は難しいと思う。（杉山）

Q：年齢配分は？　女性の割合と役目は？

A：61歳～73歳　28名のうち男性が3分の2で女性は3分の1
ほとんどが男仕事で女性は引っ越しの後の掃除が1件だけあった。（杉山）

Q：子育て支援はしないのですか？　幼い子供を抱えたお母さんの忙しさが目に余る光景をみます。

A：それはしていない。食事作りと車の送迎もやらないと決めている。（杉山）

Q：若林交流館で「ふれあいサービス」をしているが、男性の仲間がほしい。男性の会員をどうやって増やしたらいいか教えてください。

A：それはもう顔を見て「おい、お前さん、入れよ！」ですね。（今井）

Q：老人会にでるようになって初めて「おせんしょの会」を知った。宣伝が足らないのではないですか？
A：知ってもらうためには新らしい区長さんや老人クラブの会長さん、民生委員さんに話をしている。宣伝をかねて、高橋交流館の七夕祭で「おせんしょ」の看板を作って、北海道直送ホタテのあみ焼きをした。（完売）秋の交流館祭向けにくるみのおもちゃや毛糸のたわしを準備して、存在をアピールしようと思っている。蕎麦打ちの会など自分たちが大いに楽しむことも大切だとも思っている。（今井）

Q：わくわく事業から助成金はいくら出ていますか？
A：われわれの申請額の100％に当たる90万8千円を頂いた。工具その他の道具に75万円使った。道具保管倉庫、倉庫のための土地貸借費、洗剤その他の消耗費などに出費がかさみ予算が足りないことが1番の悩みだ。持参した宣伝用チラシもやっとこれだけ刷れた次第です。（今井）

参加者のコメント①　チラシ印刷なら交流館で、紙代1枚2円でやらせてもらえますよ。

参加者のコメント②　男性はボランティアに慣れてなくて、お金になる仕事を好む傾向がありますね。

参加者のコメント③私はこの 10 年間で4人の親を見送った。今度は確実に自分の番だと思っている。高齢者の切実な願いは、最後まで介護されないで元気に過ごすことです。
高齢者が活躍している「おせんしょの会」の活動は大変良いと思う。今、60歳で仕事を取り上げられてしまうが、本当は誰も現役並みに身体を動かして働きたい。働ける場所が欲しい。しかし要望がない。全くタダというのはどうかと思うが、お金を得ることよりも活動の場があってそれに参加できることの方が大事である。私は高年大学で農業を1年学んだ。卒後は同窓会や自主グループを立上げ、中には本格的にナスやスイカを市場に出して収入を得ている者もいる。活動するのは元気の元であり自分のため。相手のためもさることながら、それよりも自分のために活動するのだと心得るべし。

たしかに！　私も最近忙しくなって出かけることが多く、ほとんど家には不在なのだが、家内は大喜び。あやしくなりかけた夫婦仲も今は非常によろしいようです。（爆笑）（今井）

この分科会に参加された人は、「おせんしょの会」の今井さん、杉山さん、受講生の 7 名(女性 6 名、男性 1 名)、進行係の 2 名（竹内、河野）の合計 11 名でした。
内容を大きく分けると次の3つになります。
1.「おせんしょの会」活動の意義と高齢者の自立自助との兼ね合い
2. 男性を巻き込む方法と宣伝の仕方
3.「おせんしょの会」活動は大変良い！

私達が傾聴ボランティアとして高橋交流館での「ふれあいサービス」に数回参加させていただいた経験からの感想ですが、ここでは高齢参加者の送迎を男性ボランティアが担当しています。「手打うどんの会」が手作りうどんをもてなすサービスもありましたが、ここでも男性ボランティアが多かったです。また今井さんは区長や老人クラブの会長を経験された方だとか、高橋地区の環境には男性がボランティアをする雰囲気ができているように思いました。